

【第1号議案】 令和3年度 事業報告

1. 令和3年度環境省「環境省地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業」の 実施（継続） 事業費 2,000,000 円（定額）

令和2年度以降当法人が取り組む中心課題として鋭意検討してきた、地域の再エネ電気の有効活用への取組みに、新たな4つのプロジェクトを加えて、年間を通して取り組んだ。

- ・プロジェクト1 地域にある再エネ電気の利活用
- ・プロジェクト2 地域にある木質バイオマスエネルギーの利活用
- ・プロジェクト3 持続可能なゼロカーボン観光の検討
- ・プロジェクト4 住宅のゼロカーボン化、ZEB/ZEH/県産材利用の検討
- ・プロジェクト5 都市と地方の共同で成し遂げるゼロカーボンの検討

本事業は昨年度が最終で、地域にあるポテンシャルを見極めながら、各プロジェクトにおいて調査等の取組みを展開した。当該ミッションの成果を得るための過程の検討・実施スケジュールの策定、行政と民間の役割分担の整理、地域の方々とのつながりをつくることなどを重点課題と位置づけ、プロジェクトリーダーおよびステークホルダーの皆様と意見交換や現地調査に取り組んだ。そして、2年間の集大成として、3月には、国、県、市、地域内外の関係者、地域住民によるシンポジウムを北杜市にて開催することができ、次のステップへの足掛かりを築くことができた。

2. 令和2年度(環境省補正予算)「国立公園・温泉地等での滞在型ツアー・ワーケーション推進事業」の実施 事業費 1,448,000 円（定額）

本事業を通じて、八ヶ岳中信高原公園に属する、八ヶ岳・清里高原における、ゼロカーボンワーケーションを念頭においたモニター調査事業に取り組んだ。夏場でも比較的涼しいという高原の特性を活かしたゼロカーボンワーケーションのモニター調査を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により延期を余儀なくされ、かつ規模を縮小したうえで、冬場の実施となった。

モニター実施期間：令和3年11月1日（月）～12月20日（月）

モニター参加者 16人 6組、ガイド（同行者）3人

※モニター参加者全員よりアンケートに回答を頂いた。

感染症拡大防止の観点から、やむを得ずモニター調査は縮小版となったが、本事業の実施を通じて、清里の観光関係者間のネットワークが密に構築されていることを認識したほか、コロナ対策への工夫、環境負荷を縮小するための方策を講じていることなど、観光地清里における関係者の取組みの状況を知ることができた。また、これらの方々との一定の関

係を構築できたことは、今後の事業展開に向けた礎となるものと思料し、かつ未だ手探りではあるものの、当法人が目指す持続可能な社会づくりに向けた取組にかかる具体的な手順が見えてきたことは、何よりの収穫であった。また、成果物としてパンフレットを作製した。

3. 山梨中央銀行が取組む CO2 削減目標設定支援型の交付申請を行う金融機関向け『地域 ESG 融資促進利子補給事業』への支援と連携。

令和3年度においては、具体的な取り組み案件はなかった。しかし、金融機関との連携は当法人が取組む事業において必要不可欠であることから、引き続き同行に対して当法人との連携を働きかけるなか、CO2 削減目標設定・計画策定等に対する支援、ESG 融資案件の組成や低炭素事業を通じた CO2 削減に資する知見・情報を共有しつつ、地域の中小企業に対してこれらの活用を伴う CO2 削減に係る情報提供・アドバイスを行っていく。

4. 断熱アドバイス事業

住宅から排出される CO2 の削減を促進するために、既存住宅の断熱性能を調査し、専門家の立場からその改善方法をアドバイスする事業を実施する予定であったが、今年度は実施には至らなかった。

5. ウェルビーイング研究所設立 (WBVI)

山形先生を中心に検討してきた、ゼロエミやまなし ウェルビーイング研究所 (WBVI) を7月26日に設立した。所長には、慶應義塾大学大学院 SDM 山形 与志樹氏が就任。当面の事務所は、ゼロエミやまなし八ヶ岳事務所 (有)スタジオアンビエンテ八ヶ岳事務所内)に置く。

WBVI は、ゼロエミのシンクタンクとしてゼロエミの事業をサポートしつつ、その専門性を活かして、IT の活用や各種研修や企画、調査などの請負等も幅広く行っていく。

6. 令和3年度 林野庁が所管する「地域再エネ事業の持続性向上のための地域中核人材育成に取り組む活動」を行う団体の募集事業に応募した。

木質バイオマスへの取組を内容とし応募をしたものの採択には至らず。しかし、今回の応募に向けての準備等を通じて、地域再エネとしての持続可能な木質バイオマスの中核人材の育成に向けた方策につき様々な検討をすることができた。

7. 山梨県再生可能エネルギー導入目標策定に向けた調査・分析業務委託のプロポーザルに参加した。

(株)森のエネルギー研究所が提案者の上記事業のプロポーザルに、外部協力者として、山梨総合研究所と共に当法人が参加した。採択には至らなかったが、県の再生可能エネルギーに向けた当法人の活動内容を知っていただく機会となった。

8. 「北杜市ジオデザイン調査支援業務」の実施 委託費 300,000 円

慶應義塾大学大学院 SDM 山形先生からの依頼を受けて、北杜市ジオデザイン調査支援業務とジオデザインワークショップ支援業務を実施した。中でも、北杜市のジオデザインに繋がるオープンデータの収集をメインに実施した。ジオデザインワークショップは、コロナウイルス蔓延防止の期間と重なってしまったため、現地開催は見合わせてオンライン開催となった。

9. 「高解像度都市地域炭素マッピング手法」導入に向けた検討

慶應義塾大学大学院 SDM 山形先生が取り組む環境省の本事業に協力し、ゼロエミウェルビーイング研究所として、初めての報告書を提出した。本事業は、次年度も継続予定。

10. 内閣府の地方創生人材支援制度による、デジタル専門人材とグリーン人材に登録をした。

11. 外部依頼を受けての講演等

- ◇ 8/2 関東地方環境事務所主催の自治体向け「地域脱炭素の実現にむけた地方公共団体意見交換会」にて、代表理事窪田が唯一民間団体代表として講演（話題提供）
※関東 EPO 高橋様からの依頼
- ◇ 2/9 特別区（東京 23 区中心）全国連携プロジェクトに 代表理事窪田が登壇
※事業構想大学院大学 重藤先生からのご紹介

12. 資料・広報等

- ◇ 山形先生・吉田様執筆のランドスケープ研究特集の企画記事にて、ゼロエミやまなしの取組が紹介された。
- ◇ TIS 株式会社内プレスリリースにて、2021 年 3 月の北杜市内における実証試験の取組が報告された。
- ◇ 雑誌「事業構想」に山形先生が北杜市のこともお話ししたインタビュー記事が掲載された。
- ◇ 2021 年 9 月に（公財）地球環境戦略研究機関(IGES)より発行された「生物多様性と気候変動 IPBES-IPCC 合同ワークショップ報告書：IGES による翻訳と解説」にて、高橋様より弊社の取組が紹介された。[IPBES IPCC ws J final.pdf \(iges.or.jp\)](#)
- ◇ (一社)建築保全センター発行の機関誌「Re」No.214 特集:循環型社会に向けてにおいて、重藤先生より弊社の取組が紹介された。**Re」バックナンバー No.214**
- ◇ 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）発行の「つな環」第 39 号（2022 年 3 月）に ゼロエミの取組が紹介された。
- ◇ 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの広報誌にて 弊社の地域循環共生圏の取組記事が掲載された。